

小学校第5学年 道徳科 学習構想案

日 時 令和6年11月21日(木)

場 所 2年1組教室

指導者 教諭 坂田 久宜

1 学習構想

主題名	社会のために (内容項目C(14)勤労, 公共の精神)	
ねらいと教材	(1) ねらい 働くことは自分のためだけでなく、社会を支えるという一面をもつものであることに気づき、社会のために役立とうとする心情を育てる。 (2) 教材名 この思いをフェルトペンにたくして 出典:「みんなの道徳5(学研)」	
評価の視点	評価の視点1	評価の視点2
	石巻日日新聞の人々の働く動機となったものは何か話し合う活動を通して、働くことの意義について多面的・多角的に考えている。	自分自身を振り返り、働くことが社会のために役立つことに気付いている。
目指す児童の姿		
対話を通して、働くことでだれかの役に立っていることに気づき、社会のために役立ちたいと思う児童		
主題に迫る学習課題(本時)		本主題で働かせる見方・考え方
働くとはどういうことなのだろう。		働くことの意義について多面的・多角的に考え、自分との関わりで考えながら、自己の生き方についての考えを深めていくこと。
内容項目相互の関連的・発展的な指導、各教科等や体験活動等との関連的指導		
各教科等	道徳科	体験活動等
<p>【家庭】 毎日の生活を見つめてみよう 日々の生活を支える家族の仕事や自分にできることについて考え、実践意欲を高める。</p> <p>【社会】 米作りの盛んな地域 津奈木町の農家の方からお話を聞き、米作りと酒造りの工夫や努力を学び、自分の食生活を支えてくださる方々へ感謝の気持ちをもつ。</p>	<p style="text-align: center;">「ヤカンを持った人」 C(14)勤労, 公共の精神</p> <p>主題名 みんなのために自分ができること</p> <hr style="width: 50%; margin: 10px auto;"/> <p style="text-align: center;">「この思いをフェルトペンにたくして」 (本時) C(14)勤労, 公共の精神</p> <p>主題名 社会のために</p>	<p>【集団宿泊教室】 2日間の集団生活の中で、決まりを守り、自分の役割と責任を果たし、協力することの大切さを学ぶ。</p> <p>【総合的な学習の時間】 「アグリビジネスチャレンジ」 ネット通販サイトで、津奈木小学校で栽培したサラ玉を販売する活動に取り組み、生産から販売までを体験する。</p>

2 主題設定の理由

学習指導要領における該当箇所(ねらいや指導内容についての教師の捉え方)
本主題は、第5学年及び第6学年の内容項目C(14)「勤労, 公共の精神」を基にしたものである。働くことの意義を自覚し、進んで公共のために役立つことに関するものである。 生きていくには、自分の仕事に誇りと喜びを見だし、生きがいをもって仕事を行えるようにすることが大切である。勤労が自分のためだけでなく、社会生活を支えるものであることについて考えさせ、社会への奉仕活動などから得た充実感を基に、勤労と公共の精神の意義を理解し、公共のために役に立とうとする心情を育てることが大切であると考え、本主題を設定した。

本主題における系統		
小学校第4学年 内容項目C(14)(勤労, 公共の精神) 働くことの大切さを知り, 進んでみんなのために働くこと。 教材名「神戸のふっこうはぼくらの手で」 主題名「社会へのほう仕」	小学校第5学年 内容項目C(14)(勤労, 公共の精神) 働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうとともに, その意義を理解し公共のために役立つことをすること。 教材名「この思いをフェルトペんにたくして」 主題名「社会のために」	小学校第6学年 内容項目C(14)(勤労, 公共の精神) 働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうとともに, その意義を理解し公共のために役立つことをすること。 教材名「マザー・テレサ」 主題名「社会のためにつくす」
児童の実態 (児童の学習状況や実態と教師の願い)		
■学習するにあたっての学級及び児童の様子		
略		
■主題に関する意識の状況		
質問事項		
①係や委員会活動の仕事に責任をもって取り組んでいますか。	略	
略		
②人は何のために働くと思いますか。		
略		
■考察		
略		
教材の価値 (使用する教材の特質や具体的な活用方法)		
<p>本教材は、東日本大震災により自らが被災しただけでなく、新聞発行のための機材も被害を受け、発行の危機に立たされた石巻日日新聞の人々が、地域の新聞社としての使命感と責任をもち、手書きの壁新聞を震災後2日目から7日目まで発行し続けた姿から、ねらいに迫るものである。</p> <p>全社員が被災者であるにも関わらず、懸命に取材を行い、被災地の人々を励まし勇気づけた姿から、一人一人が自分の役割を自覚することができる。また、責任をもって成し遂げることについても考えられる。</p> <p>本教材を活用した授業においては、主人公である「わたし」や石巻日日新聞の人々の働く動機となったものは何かを考える中心発問を位置付けることで、児童のこれまでの経験や本音を引き出しながら、「働く」ことが社会を支える価値ある行為であるという心情を育てたい。</p>		

3 指導に当たっての留意点

【①体験活動とつなげた導入・終末】

- 授業の導入場面では、学校生活における自分たちが行っている様々な取組が「働く」ということであるかを直感的に判断させ、それぞれの感じ方の違いを引き出し、本時の主題に関わる問題意識をもてるようにする。
- 展開の最後に、委員会活動や縦割り班活動についての下級生からのインタビュー動画を見せることで、働くことが社会を支えることにつながっているという実感をさらに高められるようにする。

【②「考え、議論する道徳」となる場 (ハートつなぎタイム) の設定】

- タブレットを活用して自分の考えを可視化し、友達と交流する場面を設定することで、働くことが社会を支えることについて考えられるようにする。

4 人権教育を通じて育てたい資質・能力について

- 相手に伝わるような話し方や表現、相手の考えをより深く理解できるような聞き方やたずね方を意識させることで、納得解が導き出せたという実感をもてるようにする。(③技能的側面力)

5 本時の学習

(1) ねらい

石巻日日新聞の人々の働く動機となったものは何か話し合う活動を通して、働くことは自分のためだけでなく、社会を支えるという一面をもつものであることに気付き、社会のために役立とうとする心情を育てる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◎中心発問◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図内容方法等)
導入	5分	<p>1 本時の学習課題を知る。</p> <p>○働いていると思うものはどれかな。どんなことが働いていると言えますか。</p>	<p>・学校生活の写真を提示し働くところへのイメージを確認し、めあてへとつなげる。</p>
展開	30分	<p>【めあて】 働くとはどういうことなのだろう。</p> <p>2 教材の内容を確認し、登場人物の気持ちや考えについて話し合う。</p> <p>(1)登場人物や震災直後の石巻の状況について押さえる。</p> <p>○東日本大震災が起きたときのわたしや石巻の様子はどうだったかな。</p> <p>◇津波でたくさんの犠牲者が出た。</p> <p>◇社員や家族も被災した。</p> <p>(2)手書きで新聞発行することを決断したわたしや石巻日日新聞の人々の勤労観について話し合う。</p> <p>○あなたがわたしだったら、震災後の状況下で、手書きの新聞を発行しようと思う。思わない。</p> <p>◇自分や社員も被災しているから無理。</p> <p>◇書いた方がみんなのためになるのは分かるけれどそこまでできるか不安。</p> <p>◇石巻の人々のために書きたい。</p>	<p>・主人公や「石巻日日新聞の人々にとって、働くとはどのようなことか」という視点をもたせ事前読みを行い、本時で考えたいことに迫れるようにする。</p> <p>・写真で被害の様子や手書きの新聞を提示することで、少しでも実感をもって考えられるようにする。</p>
		<p>◎厳しい状況下にあったのに、わたしはなぜ手書きで新聞発行を行おうと決断することができたのでしょうか。</p> <p>◇石巻の人々のためにという思い。</p> <p>◇新聞で伝えることは自分たちにしかできないことだから。</p> <p>◇日日新聞の仲間がいたから。</p>	<p>・わたしや石巻日日新聞の人々の働く動機となったものについて考え、対話することで、働く意義ついて、多面的・多角的に考えられるようにする。</p> <p>・新聞を読んだ石巻の人々の心情についても触れ、働くことの意義について考える。</p>
		<p>○わたしと似たような経験はないかな。</p> <p>◇自分は、そんなすごいことができていけるかな。</p> <p>◇もしかして、委員会でやっていることが、似ているのかな。</p> <p>○働くとはどういうことなのかな。</p> <p>◇だれかのために役に立つこと。</p> <p>◇自分の仕事に責任をもつこと。</p>	<p>・「似たような経験はないか」など問い返ししながら、働くことの道徳的価値について自分事として考えられるようにする。</p> <p>・委員会活動や縦割り班活動についての下級生のインタビュー動画を見せて、働くことの意義を実感できるようにする。</p>
終末	10分	<p>3 学習を振り返る。</p> <p>○今までの働くことに対する思いや今日学習して思ったこと、これから大切にしていきたいことについて考えよう。</p> <p>◇自分もだれかのために役に立ちたい。</p> <p>◇自分にしかできないことがあるということが分かった。</p> <p>◇支え合ったり、協力したりして、がんばりたい。</p>	<p>・振り返る視点（今までの働くことに対する思い・今日学習して・これからは）を与える。</p>



【評価の視点1】 石巻日日新聞の人々の働く動機となったものは何か話し合う活動を通して、働くことの意義について多面的・多角的に考えている。
(方法：発言・ワークシート)

【評価の視点2】 自分自身を振り返り、働くことが社会のために役立つことに気付いている。
(方法：発言・ワークシート)

【板書計画】

11/21 この思いをフェルトペンにたくして

めあて 働くとはどういうことなのだろう。

「働く」

サラ玉	宿泊教室
委員会活動	当番活動

震災直後の石巻の写真

- ・大きな地しんと津波
- ・たくさんの方がぎせいに
- ・社員や家族もひ災

社会を ささえる

自分のためではなく だれかのために

自分の仕事に 責任をもつ

みんなて 協力する

手書きの新聞

石巻の人々

ありがとうございます
自分もできることをがんばろう
被災しているのにすごい

新聞社の仲間がいるからできるはず
新聞は自分たちにしか書けない
あきらめたくないという思い
みんな情報を知りたがっている
石巻の人達を助きたい

石巻の人々

ありがとうございます
自分もできることをがんばろう
被災しているのにすごい

・自分たちも被災しているから無理
・石巻の人のために書かなければ
・書いた方がいいと思うができるか
不安

【ICT活用計画】

例：教師による教材提示の計画 ICTを活用した発表まとめ等による考えの共有の計画等

導入時：サラ玉収穫・出荷、集団宿泊教室の様子を提示する。【電子黒板】

展開時：児童の考えをタブレット上の思考ツールで表現し、共同閲覧する。【タブレット】
ビデオメッセージを視聴する。【電子黒板】